

世界最大級の歓楽街であるパタヤのウォーキングストリートから、セレモニースタート。多くの観光客がバイクとライダーに興味津々で、記念撮影を求められました。このスタイル、日本でやれたらいいと思う。モータースポーツをPRする手段としては単純明快で大アリだと思いました

Photo/Motoyoshi Yamanaka



第19回

ENDURO only
エンデュロオンリー

アジアクロスカンントリーラリー2014

本誌宮崎、人生初挑戦にして完走

「ラリーにハマりました！」



FEDERAL **FLEX**
ASIA CROSS COUNTRY RALLY 2014
9th-15th August
Pattaya/Thailand ▶ Phnom Penh/Cambodia

FIA, FIM, FMSCF, THAILAND, CAMBODIA, FEDERAL, FLEX, PROPAK, FB, NENC, PDA, MIMS, SINGAPORE

ラリーがこんなにも楽しく、素晴らしい競技だとは思ってもみなかった。コマ図を見ながら正解を探り当てるゲーム性。タイ、カンボジアの人々の純真さ。どこの村でも目と耳に飛び込んできた子供たちの歓声。なにを食べても美味しかった新鮮な食材の料理。ライダー同士の結束力、絆。ラリーという枠組みのなかで、共に競技し、大移動し、助け合い、飯を食い、会話して、ゴールまでたどり着く。濃密な体験を経て、ラリー全体がゴールを目指す共同体になっていくことに、たまらない魅力を感じました。この記事で、ラリーに関心がなかった方たちに読んでもらいたい。これはやらないともったいない。一年間このラリーのためにお金を貯める人たちの気持ちが分かりました。それでは、僕のアジアクロスカンントリーラリーの日々を書いていきます。ジリジリ焼ける真夏の暑さを思い起こしながら…

■日時 / 2014年8月9日(タイ・パタヤ) ~ 15日(カンボジア・フノンペン)
■主催 / 問い合わせ先 / アジアクロスカンントリーラリー日本事務局 TEL03-5911-3844
http://www.r1japan.net/axcr/index_ja.html

TEXT / DAIGO MIYAZAKI



ガス欠したマシンを押してくれた子供たちと村の皆さん。笑顔が最高で、心が優しくなった！ AXCRの魅力はこんな人たちの中を思い切り走れることでもあるのだと、そのとき思いました



SS5の途中で立ち寄った村でサン(ガソリン)を購入。カンボジアはどこに行っても、黄色い瓶で売っています。ちなみにバイクの調子は問題ありませんでしたよ



ガス欠して道はたにバイクを寄せました。ノーマルタンクでのガス欠なんて言語道断、シャレにならないんですけど、こののどかな風景と村人に出会えたのでした



カンボジアのホテルでタイヤ交換に励む高橋さん。二輪ラリー初参戦でしたが、日増しに速さを発揮して、最終SSはクラス3位！ 時々道に迷った僕は高橋さんに何度か助けてもらいました



アジアクロスカントリーラリー

1996年からスタートしたFIA、FIM公認の国際ラリー。2012年から二輪部門(MOTO 排気量区分無し)も新設され、初代優勝者は池町佳生さんでした。

★費用は?
2014年度の二輪参加費はUS\$1,700ドルで、航空券以外のほぼすべての費用(宿泊、朝夕食、すべての催しの参加料など)が含まれます。ガソリンは自分で購入。チームジャパンサポートカーのカンボジア代金購入も可能です。

★バイク・パーツの船代金は?
事務局に一任するので簡単です。2輪1台+スベアパーツ/パーツ等で約12万円弱。

★ライセンスは?
MFJ発行の国際ラリーライセンスが必要。今年はカンボジア入国用のビザが必要でしたが、大使館での取得は至って簡単でした。あとは国際運転免許証を持っていきました。

★保険は?
自分で海外旅行傷害保険(ラリー中もカバーする保険)に入る必要があります。

★その他情報
パーツ類はラリー中、四輪二輪共有の専用トラックに入れて移動するので、大きくて頑丈なケースがおススメ。そのほうが個数も少なく、通関申請も楽です。日頃使っている工具類やメンテナンス用品など、多めに持参したほうが何かと良さそうです。他のライダーを助けることもできます。タイはパーツ、カンボジアはUSドルを使用。物価は日本の1/3くらいで済みました。携帯は海外パケホータイムも使いましたが、国内でSIMフリー化してもらい、現地のプリペイドSIMカードを購入。7日間で1000円くらいと安いです。かかった費用は渡航費、参加費、燃料費、雑費、保険代等すべて込みで45~50万円くらいです。

ホテルに戻り整備して、シャワーを浴びて食事してから、翌日のマップをホルダーにセットします。夜でもライダーや四輪のメカが作業していて、この時間帯も楽しかった。今年はロール状でもらったので貼り切りせずに済みました



Photo/Naoki Yoshizawa



Photo/Shinichi Yamada

これは山田さんのコマ図。マーカーで進行方向を強調したり、注意事項を日本語に訳したりするんですね。特に区間距離が短い所は間違えないように注意が必要です

いきなりSSIでガス欠のピンチ。しかし優しい村人に助けられた!

LEG 1
バタヤ→サケオ
総距離403.1km、そのうち193.5kmがSS1。いよいよ本格的に競技が始まります。バタヤのホテルからSS1スタート地点に行く道中、いきなりミスコースしました。福村先生(歯科医)が優しく「いきなり一人で行くと不安になるから、先を走っていいよ」と言っていたんですが、曲がる交差点を見過ぎて、大幅に時間ロス。先生、すみません!
まずは、途中の99km地点PCに待機しているサポートカーを目指します。あんなに不安だったのに、スタートしてしまえば楽しさが勝る。そしてハスクバーナFE501、想像以上に扱いやすい。これはマジで凄い。
もう一人の歯科医、四輪での参加経験はあるものの、25年ぶりに二輪に乗って参戦の鶴山さんの姿を発見しました。いきなりコース

追います。四輪はコトライバー(ナビ役)が、二輪よりも詳しいマップを確認しているので、迷うことなく攻めるんです。そして自分のコマ図と風景が合致する所まで来て、ようやくコース復帰してついにゴール。やった〜!
後から聞いた話ですが高橋さん道迷って、ほとんど諦めていたそうです。親切な民家で電話を借りて、大崎さんと連絡先あって国道まで戻ろうとした矢先、同じく道に迷っていた鶴山さんと遭遇。2人でなんとか生還してきたのでした。しかし、ラリーってすごい。生還できるかどうかはバイクの技術だけでなく、運や知力、本能、あらゆるものを総動員するということなんですね!
SS1のリザルトは16台中7位でした。所用時間5時間29分28秒。ちなみにトップの前田さんは4時間を切っています。あんなに時間をロスしたのに、意外にも悪くない成績。ラリーには面白い。キャメルバッグの口がなくなっていた僕は、アランマイトホテルに到着し、入り口に設けられた無料のジュースを浴びるように飲みました。あとから生還してきた高橋さんも脱水症で、共にゴクゴク飲んだ。これほど美味しいオレンジジュースは記憶にない!



二輪総合優勝の前田さん。SS5の終盤にバースト、大きく蛇行し、引きちぎられたゴムが肩を打ち付けて激痛が走るも、アクセルを緩めず！フィニッシュ後にバイク屋で適当なタイヤを装着して乗り切った！
Photo/Shinichi Yamada



カンボジアで立ち寄った食堂。新鮮な肉や野菜のおかげを取り分けて食べるんですが、これがまた美味しい！味付けはタイよりも日本人向け。バンベンの屋台も美味かったな～
Photo/Shinichi Yamada



タイはプランテーションの農道を走るルートが多かったです。同じような風景が多いので迷ったら大変そうですが、路面はとて走りやすいです
Photo/Motoyoshi Yamanaka

カンボジア上陸初のLEG4。地平線が見えるほどの直線。スタートしてから数分間アクセル全開です。松本さんは「久々に脳がしびれた。若いときの何も考えずに速さを追い求めた心境を思い出したよ」と振り返りました。



- Chea LYKHEANG**
YAMAHA WR450F
勢いよく飛び出すけどミスコースも多くてコース迷走を自覚(笑)。「若いなあ」と感じさせてくれたChea君、イケメン君で、まさにカンボジアの王子っという感じがした
- 江連 忠男**
YAMAHA WR450F
実はストイックに体作りしているんじゃないかと思われたボクサー体型の江連さん。昨年の雨のラオスで、助けてくれた現地の人々がまさに江連さんそのものだったという噂
- 福村 久澄**
KTM 350EXC
BAJA参戦でおなじみの福村先生。コマ回りに少し苦労されましたが、今年は怪我なく完走を果たされました！このたさぶさ、マジで見習わなければなりませんなあ！
- 関島 優**
Honda XR250 BAJA
2012年はマップケース無しで完走を果たした関島さん。今年はLEG1でクラッシュして残念な結果でしたが、17年前のこの人との取材がなければ、レースをしてなかったかも
- Koun Phandara**
KTM 350EXC-F
いつも人懐っこい顔で笑っていたダラ君。めちゃくちゃ速くて、総合2位。前田さんがバーストしながらアクセルを開けさせたのは、ダラ君のプレッシャーだったのです
- 池町 佳生**
Honda CRF450X
マシントラブルで残念ながら最下位でしたが、毎晩シムを削ってスタートラインに立つ執念はさすが。17年前のこの人との取材がなければ、レースをしてなかったかも
- Touch Thach**
KTM 250EXC
仲間思いで、我々にも積極的に話してくれたThach君。カンボジアのホテルでは色々お世話になりました。カンボジアのライディングツアーを主催しています
- 前田 啓介**
KTM 450EXC
JNCC、JECでおなじみ5D前田さん。バーストしながらの激走は、話を聞いているだけでガクブル。「ラリーは人生を振り返られるから一番好き」と話してくれました
- 鶴山 光太郎**
YAMAHA WR450F
歯科医の鶴山さんは25年ぶりにバイクに乗って参戦！足を痛めたりして支えるのも大変そうでしたが、終始顔が楽しそうでした。後半の高速ダート、速かったな～！
- Freddy Karlson**
Husaberg FE450
スウェーデンから唯一参加のフレディさん。SS5では一緒に道を探したりしました。「ハスカーパーナFE501は最高だね。僕の友達も乗っているよ」と話してくれました
- 高橋 主剛**
KTM 250EXCR
二輪ラリー初挑戦で、整備時に知り合いました。初日のピンチを乗り越えて完走。「とうとうここまで来ちゃいましたね」とアンコールワットで言葉を交わしました
- 梶野 雄純**
Husaberg TE250
かつてJNCCにフル参加していた梶野さん、総合6位で表彰されました！スコールの時は正直、FLYのシールド付きトレッカーヘルメットがうらやましかったです
- 松本 典久**
YAMAHA WR450F
昨年はマシントラブルでリタイアだったのですが、2012年に続き見事4位を獲得されました！ラリーの事前の準備の必要など大会中に色々教わることができました
- 山田 伸一**
YAMAHA WR450F
LEG2で水没、転倒、エンジントラブルで無念のリタイア。その後は傷だらけの体でサポートに徹していたご協力ありがとうございました。早くも来年のリベンジに燃えますね！



2000kmを共に走ったラリースト達！

※初日リタイアしたJakkrin Chaothale選手を含め二輪参加者は16台、四輪は22台でした

LEG 3
サケオ→タイ/カンボジア国境→アンコールワット
266・32km
SS3は171・67km。ホテルから約4輪、四輪がコンボイを組んで国境のアランヤプラテートまで進みます。国境で

今日はついにカンボジアに渡る日です。総距離266・32km、SS3は171・67km。ホテルから約4輪、四輪がコンボイを組んで国境のアランヤプラテートまで進みます。国境で

この日は総距離385・95km、SS2は239・84kmという長丁場。128・5km地点でPC。この日もLEG1と同じような風景の中を走りますが、高速ダートもあれば、森林、ジャングルも

LEG 4
アンコールワット→パタンバン
この日トップに立ったのは池町さんで、SS3がキャンセルされて幻の結果になってしまいました。池町さんは初日からマシントラブルに見舞われていました。バルブクリアランスがなくなり、毎晩シムを削っているではないですか！ホテルに付いたらすぐに、みんなが食事しているときも削っていました。その後リアブレーキ故障でフロントブレーキだけで走行したりと、とにかく粘りが、だいぶ度胸がついたようです。

LEG 5
パタンバン→バンバン
ついに最大の山のLEG5。総距離は423・04kmで、SS5は206km。途中のPCポイントがありません。江連さんが、村に行けば必ずガソリンを量り売ってくれるから大丈夫。ただ中身のオクタン価が分からないので、50kmごと等こまめにに入れて薄めたほうがいい」と教えてくれたんです。カンボジア語で「サン」と言っらしい。それで

整備を終えて、シャワーを浴びて、バイクのメンテナンスを済ませ、ラリーという野外宿泊という過酷なイメージがありました。このラリーは毎晩ホテルで宿泊できるの、心身ともにリフレッシュできます。

この日のマップを準備しなくてはなりません。蛍光ペンでマークして、ホルダーに合わせてハサミでカットして、公式アナウンスされた注意事項や変更箇所を書き込み、マップホルダーに巻き付け、マンヤかんやで就寝できるのは0時を過ぎてから、ホテルのベッドがありがたい。ZZZ。

この日は総距離385・95km、SS2は239・84kmという長丁場。128・5km地点でPC。この日もLEG1と同じような風景の中を走りますが、高速ダートもあれば、森林、ジャングルも

ある。ほぼドライですが、ときに深い水たまりもある。そんな所はギャラリーも集まっていて、ラインを覚えてくれたりします。どこの集落でも大勢が観戦しています。そんな中を駆け抜けるとき、子供たちのキャーキャー叫ぶ歓声が耳に残ります。手を降ると、もう大人も子供も大喜び。少し不安になって道をジエスチャーで訪ねると、誰もが優しい顔で「そっちで合っているよ」と教えてくれます。「こんな形のバイクが通らなかつたか？」などと手な英語で聞くと、英語を話せる住民を呼んできて答えてくれる。このラリーの魅力は、東南アジア、その住民の人情の魅力でもある

ホテルでは先に着いたライダーが整備を始めています。僕も前後タイヤを交換。だんだんとラリーの日常が当たり前のようになってきました。不安よりも楽しさが増えるというか、ラリー後、社会復帰できるんだらうか。



タイのバタヤから約1500km走破してたどり着いたアンコールワット。ラリーの途中だけど、達成感はまだないものでした。敷地内は正式な許可を得たりエノンなのです
Photo/Manabu Takahashi



どの村に行っても沿道は村人達でぎわう。特に子供達の歓声がすごく嬉しすぎる。制限地帯なんだけど、ワイリーやワイドオープンを要求する子供が多かったです(笑)
Photo/Motoyoshi Yamanaka



Husqvarna
FE501 (2014年モデル)
¥1,460,000 (税込)



「Motion Pro LiteLock リムロック (¥2,700 税抜)」。軽量で頑丈なので信頼性抜群。ムースとの相性も最高です
問: ヤザワ TEL03-5763-0281
www.yazawainc.com



カンボジアの高速ギャップで効果絶大だったのが「HUSKY POWER ステアリングダンパー (本体¥56,052 プラケット2点¥28,080 税抜)」。
問: ハスクバーナモーターサイクルズジャパン TEL03-6380-7020 www.husqvarna-motorcycles.com/jp_jp.html

無転倒、ノットラブルで完走させてくれたFE501

WP製4CSサスペンションを搭載した最大排気量モデル。高速ギャップの突き上げや、ぬかるみでも転倒せずノットラブルで完走。本当に良いバイクでした。バッテリーは信頼性抜群の古河電池さん製。マップホルダーなどのセットアップはハスクバーナ東名横浜さん。タイヤの中身は新品のビムース1セットでした
Special Thanks/Husqvarna motorcycles. Husqvarna motorcycles japan (www.husqvarna-motorcycles.com/jp_jp.html) / Husqvarna Tomei Yokohama (www.husqvarna-yokohama.com)



信頼性抜群の「F2R Rally Electric Road Holder 730 (¥43,200 税込)」に、夜間でも安心の「F2R Lighting kit for 730 (¥4,860 税抜)」をセット。トリップメーターは「RC-7 (¥19,800 税込)」×2個。総距離用と区間距離用。補正機能を使用したら誤差が少なくなりました。大会中ノットラブルでしたが、メーターは今後も進化するようなので楽しみです
問: ハスクバーナ東名横浜 TEL042-850-6371
www.husqvarna-yokohama.com



リアはFIM公認タイヤ「IRC BR-99」を3本、フロントは「IRC ix-07S」を2本使用。高速スタートからマディまで安定して走れました。インナーウエアは「DFG ネオフィットペンテッド (¥4,800 税抜)」、「DFG ネオフィットパンツペンテッド (¥6,300)」。吸汗速乾性が高くて毎日快適でした
問 (IRC): 井上ゴム工業 0120-041718 (フリーダイヤル) www.irc-tire.com
問 (DFG): ダートフリーク TEL0561-86-8301 www.dirtfreak.co.jp

リアはFIM公認タイヤ「IRC BR-99」を3本、フロントは「IRC ix-07S」を2本使用。高速スタートからマディまで安定して走れました。インナーウエアは「DFG ネオフィットペンテッド (¥4,800 税抜)」、「DFG ネオフィットパンツペンテッド (¥6,300)」。吸汗速乾性が高くて毎日快適でした



日本人ライダーのサポートをしてくれたハスクバーナ東名横浜の大崎店長 (写真左)。中央はスウェーデンのOlle Ohlsonさん。昨年は2位、今年は色々サポートしてくれた気さくな著名ラリーリストです



FIMライセンス申請時に必要なメディカルチェックを受けました。Dr. 村尾もオフロードバイク大好きなので頼りになります! 問: 狭山ヶ丘東口整形外科 TEL04-2946-8182



「TREK FIELD ISDEウエストバッグDタイプ (¥11,905)」。フィット感が良く、容量の多さに大助かり
問: トレックフィールド TEL022-381-3088
www.trekfield.com



非常用電池でも話題の古河電池バッテリーを装着した4名が無事完走。信頼性の高さを証明してくれました!



長いようであつという間に最終レク。総距離は197.02km。SS6は51.02

も心配性の僕は念のために45L背負いました。さて、そうはいっても長丁場。僕以外のライダーも途中の村でガス補給することになりました。この日もマイペースで走っていると、村で梶野さんと鶴山さんが休憩していました。僕がなかなか来ないので穴に落ちたかと心配していたようです。すみません! ダントツでスロペースなので、最初は一緒に走っていたスウェーデンのフレディさんも先に行っちゃいました。二輪のシンガリをつとめます。路面はひたすら高速スタート。途中にある川渡りや四駆が掘った穴は、雨が降ったら大変なことになったと思いましたが、今回はドライだったので拍子抜けする浅さ。それよりも朽ちているような木製の橋が怖い。道路もクローズしてないから、横から飛び出してくる! フィニッシュしたら四輪トップの車が背後に迫っていました。ギリギリセーフ。SS5の結果はやはり最後尾の13位、総合8位かわりません。ここまでくれば完走が見えてきます。無転倒、立ちコケもなし。マシントラブルも一切ありません。

雨期にも関わらず、ここまで晴天が続いていたんですが、リエゾンを取っているときに、風が吹き雨雲が見え始めたと思ったら、いきなりスコールに見舞われました。一瞬にして道が川のようになり、しかもSS5の川よりも深いんです(笑)。梶野さんたちと全身ずぶぬれのまま、ホテルカンボジアに到着。今までのホテルでも十分快適でしたが、ひと際豪華です。それなのに、僕らといったらパンツまでビシヤビシヤでたり着いたのです。

「ラリーはとてつもなく面白い競技でした。A X C R、最高ですよ」ということ。来年度の20周年ミヤンマー大会はスウェーデンから大差参加予定だそうです。皆さん、エントリーをマジで考えてみてください。一生忘れられない経験がきっと出来るはずですから。

kmと、最終日は短い。ここまででは1コマずつ総距離を確認し、区間距離をリセットするよな走りをしてきましたが、直線が続くコマを飛ばして、分岐点や曲がり角のコマだけを見る一般的な方法を試みました。メーターも総距離だけをチェックします。しかしまだ僕には早かったか。スタートしていきなり村でミスコースしているのを池町さんに目撃されたり(笑)、道に少し迷って福村先生と共同で探し当てたり、なんやかんやで色々ありました。しかも石が木に足が引っかかって、韌帯を延ばすというオチもあり。少しバタバタしながらもゴールしました。

この日も先頭のほうではドラマがありました。ここまでトップを死守していた前田さん。梶野さんの目の前で後輪がバーストし、前田さんの肩を鞭のように直撃。あろうことかそのままアクセルを緩めずに蛇行しながら走り続けました。逆転負けしたから日本を言われるか分からん! リムだけでも走るつもりだった」と前田さん。さすがです。ここまで1986.48kmを駆けつけた体には疲労がたまっています。しかし、やり通した喜びのほうが遙かに勝ります。気分がいい! ライダー同士の絆も深まり、互いに健闘を祝いました。国籍も年齢も職業も関係ない、素敵な世界を知りました。

僕のラリー参戦は、読者の皆さんに競技の素晴らしさをお伝えするのが最大のテーマでした。そして、いま何のいっわりもなく、心から言えるのは、「ラリーはとてつもなく面白い競技でした。A X C R、最高ですよ」ということ。来年度の20周年ミヤンマー大会はスウェーデンから大差参加予定だそうです。皆さん、エントリーをマジで考えてみてください。一生忘れられない経験がきっと出来るはずですから。